

でんでんむしの かなしみ

新美^{にいみ}

南吉^{なんきち}

いっぴきの でんでんむしが ありました。
ある ひ その でんでんむしは たいへんな こ
とに きが つきました。

「わたしは いままで うっかりして いたけれど、
わたしの せなかの からの なかには かなしみが
いっぱい つまって いるでは ないか」

この かなしみは どう したら よいでしょう。
でんでんむしは おともだちの でんでんむしの
ところに やって いきました。

「わたしは もう いきて いられません」

と その でんでんむしは おともだちに いいまし
た。

「なんですか」

と おともだちの でんでんむしは ききました。

「わたしは、なんと いう ふしあわせな ものでし
よう。わたしの せなかの からの なかには かな
しみが いっぱい つまって いるのです」

と はじめの でんでんむしが はなしました。

すると おともだちの でんでんむしは いいまし
た。

「あなたばかりでは ありません。わたしの せなか
にも かなしみは いっぱいです。」

それじゃ しかたないと おもって、はじめの
でんでんむしは、べつの おともだちの ところへ
きました。

すると その おともだちも いいました。

「あなたばかりじゃ ありません。わたしの せなかにも かなしみは いっぱいです」

そこで、はじめの でんでんむしは また べつのおともだちの ところへ いきました。

こうして、おともだちを じゅんじゅんに たずねて いきましたが、どの ともだちも おなじ ことを いうので ありました。

とうとう はじめの でんでんむしは きが つきました。

「かなしみは だれでも もって いるのだ。わたしばかりでは ないのだ。わたしは わたしの かなしみを こらえて いかなきゃ ならない」

そして、この でんでんむしは もう、なげくのをやめたので あります。

「でんでんむしのかなしみ」

※『新装版 新美南吉童話集 1 ごん狐』(2012年12月1日、大日本図書株式会社)の「でんでんむしのかなしみ」をもとに編集しました。